4月16日　ルカによる福音書24章12～35節　今日の説教から
説教題：「私たちの心は燃えている」

今日の聖書個所では、イエス様の十字架を目撃して、復活について婦人たちから知らされながらも信じることが出来なかった二人の弟子が、暗い顔をしながらエルサレムからエマオへと向かう途中で起きた出来事が記されています。この二人は、今日の個所の最後の部分でパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いて渡すその姿を見て、自分たちが語り合っていた人物がイエス様であることを知りました。ここで、イエス様だと理解したその瞬間について、「二人の目が開け、イエスだと分かった」と書かれています。逆に、イエス様が二人の前に現れた時は、「二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった」と書かれています。私たちは、目がさえぎられていると、イエス様に出会っても、それがイエス様だと気づくことが出来ない、目が開かれて初めて、そうであると分かるのです。

「目が遮られている」とは霊的な意味で盲目なことを意味しており、イエス様に対する無理解や、真理に対する無関心な姿勢が彼らをその状態にさせています。では、私たちは、どのようにしてまだイエス様のことを知らない隣人の目を開くことが出来るのでしょうか。

イエス様にまだ出会っていない人の「目を覚まさせる」「見えるようにする」ために私たちは伝道するのだ、と言うと少しだけ上から目線のように感じてしまいますが、その力があるのはイエス様であり、私たちではないのだということをまず理解しておかなければいけません。私たち自身には特別な力はなく、しかし私たちを用いて、神様は特別なことを成し遂げます。だからこそ、「私たちが目を覚まさせる」という思いに陥ってしまわないように気を付けることが、最初の第一歩なのだと思います。

ただ、そのように私たち自身が隣人の目を開ける力を持たないのであれば、私たちはどうすればいいのでしょうか。これは、実際に目が見えない人のことを考えてみると分かりやすいかもしれません。もし私たちの目が見えていて、誰か目の見えない人が側にいるのであれば、手を貸したり、声を出したりしてその人を手伝ったり、導くのではないでしょうか。私たちは「目が見るようになりなさい」なんて言い方はしないでしょうし、そのように目が見えない人がこけてしまったり、躓いてしまわないように手を差し伸べるのだと思います。

私たちが行う伝道活動も、それと同じことではないでしょうか。この世で生きる人々が、この世で生きることを妨害するのではなく、この世で生きながら正しく生きることが出来るように導く。まず私たちが出来るのはそのようなことからなのだと思います。そして可能であれば、そのように神様が望み、備えてくれるのであれば、私たちはその人を教会へと誘い、同じ歩みを行う友として迎え入れるのです。おそらくはそのような一人一人の目をイエス様が開いて下さることでしょう。

「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」、そう弟子たちが語るように、私たちは伝道に向けて情熱を燃やすことが出来ているでしょうか。そして、伝道に向けて前のめりになりすぎていたり、空回ったりしていないでしょうか。私たちは正しい歩みを教えるために、心は情熱によって燃やしながら、同時に頭は理性によって極めて冷静に、時に打算的と表現されるほどに、御言葉を伝えていくことが出来ると思います。それが、私たちがこの地において用いられている理由なのだと思います。神様によって用いられている、その喜びを胸に、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：ルカによる福音書 24 章 13～35 節

- 13:ちょうどこの日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩きながら、この一切の出来事について話し合っていた。話し合い論じ合っていると、イエス御自身が近づいて来て、一緒に歩き始められた。しかし、二人の目は遮られていて、イエスだとは分からなかった。

- 17:イエスは、「歩きながら、やり取りしているその話は何のことですか」と言われた。二人は暗い顔をして立ち止まった。その一人のクレオパという人が答えた。「エルサレムに滞在していながら、この数日そこで起こったことを、あなただけはご存じなかったのですか。」イエスが、「どんなことですか」と言われると、二人は言った。「ナザレのイエスのことです。この方は、神と民全体の前で、行いにも言葉にも力のある預言者でした。それなのに、わたしたちの祭司長たちや議員たちは、死刑にするため引き渡して、十字架につけてしまったのです。わたしたちは、あの方こそイスラエルを解放してくださると望みをかけていました。しかも、そのことがあってから、もう今日で三日目になります。ところが、仲間の婦人たちがわたしたちを驚かせました。婦人たちは朝早く墓へ行きましたが、遺体を見つけずに戻って来ました。そして、天使たちが現れ、『イエスは生きておられる』と告げたと言うのです。仲間の者が何人か墓へ行ってみたのですが、婦人たちが言ったとおりで、あの方は見当たりませんでした。」そこで、イエスは言われた。「ああ、物分かりが悪く、心が鈍く預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、メシアはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか。」そして、モーセとすべての預言者から始めて、聖書全体にわたり、御自分について書かれていることを説明された。

- 28:一行は目指す村に近づいたが、イエスはなおも先へ行こうとされる様子だった。二人が、「一緒にお泊まりください。そろそろ夕方になりますし、もう日も傾いていますから」と言って、無理に引き止めたので、イエスは共に泊まるため家に入られた。一緒に食事の席に着いたとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱え、パンを裂いてお渡しになった。すると、二人の目が開け、イエスだと分かったが、その姿は見えなくなった。二人は、「道で話しておられるとき、また聖書を説明してくださったとき、わたしたちの心は燃えていたではないか」と語り合った。そして、時を移さず出発して、エルサレムに戻ってみると、十一人とその仲間が集まって、本当に主は復活して、シモンに現れたと言っていた。二人も、道で起こったことや、パンを裂いてくださったときにイエスだと分かった次第を話した。